

---

# きっかけ

石子

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

きっかけ

### 【Nコード】

N8945K

### 【作者名】

石子

### 【あらすじ】

富田氏のもとに、ビジネスでの成功の秘訣を聞こうと記者が訪ねてきた。

「富田さん。是非、成功の秘訣を教えてください」

豪華な高層マンションの最上階の一室。

雑誌記者がメモを片手に質問をはじめる。

「いや。秘訣なんてものはありませんよ」

数々の事業を世界各国で展開している富田氏は、謙遜しているのかそんな風に答えた。

もちろん記者はその答えに満足するわけがない。

ビジネスで成功した人を紹介するコーナーなのだ。それだけでは記事にならない。

「しかし失礼ながら、あなたはお金持ちの家に生まれたわけでもなく、ごく一般的なサラリーマンから世界屈指の事業家になられた。やはり何かこれといった秘訣のようなものがあるのでは？」

富田氏は困ったようにしばらく考えていたがこんな風に答える。

「そうですね。高いところに行くという目標を持ち続けていることかもしれませんね」

ようやく記事になりそうなコメントが聞けそうだと記者は安堵する。

「なるほど。目標あってこそその努力というわけですね。そのように一念発起なさったきっかけはあったのですか？」

「きっかけといえますか……。まあ、以前勤めていた会社をリストラされてしまいました」

「そうなんですか」

深く相槌を打つ。

挫折を経て成功をおさめる。……その方が話が盛り上がる。

「ええ。リストラされた後は仕事もなかなか見つからないし、借金もどんだんかさんでしまつて……。どうにもならなくて自殺を考えました」

そうこなくては！

そういうエピソードがあつた方が読者の反応は良い。記者は富田氏の言葉を遮る勢いで身を乗り出した。

「さぞかし苦勞されたんでしょね。それからどうされたんですか！？」

富田氏は記者の勢いに、やはり少し困つた顔をしながらも質問に答える。

「どうやって死のうか考えてもなかなか実行にうつせない日が続きました」

「え……ええ」

「色々考えた結果、飛び降り自殺なら自分にも出来るんじゃないかと思つたんです」

「飛び降り？」

「ポンつと飛ばせば終わり、という感じがするでしょう？」

同意するべきところだろうか、と考えて記者は曖昧に返事をする。  
「まあ……。でも飛び降りても高さがなかったり、たまたま木の上などに落ちて助かつたという話もよく聞きますが」

「そうなんですよ！ だから確実に死ぬるような高い場所から飛び降りる必要があるわけです！」

「はあ……」

事業で成功した話を聞くはずが、何故か自殺について熱く語り始めてしまった。

「そうになると十数階程度の建物ではダメだ。もっと高いところでないとい。そう思つて私は様々な建物を調べ始めたのです」

そこまでの富田氏の話を聞き、記者は納得して相槌を打った。

「ああ、なるほど！ それがきっかけで建物投資で莫大な利益を得られたんですね！ 地道な調査があつてこそということですね」

確かに、富田氏の仕事は建物への投資を仲介するアドバイザーだ。様々なビルを直接自分で歩いて廻っているうちにテナント等の空き室率を自然に把握してしまい、投資に最適な物件がわかるように

なってきた。それを友人に教え紹介料をもらっているうちに、アドバイザーとしての地位もあがって、様々な事業の展開が可能になった。

……という具合に富田氏はまたたくまに大金持ちになったのだった。

そういつたいきさつを聞き、記者は満足して引き上げて行った。絵に描いたようなサクセスストーリーだ。

記者が帰り、静かになった自室で、富田氏はひとりごちた。

「自殺をするために高いビルを探したが、高いビルというのは中に入りづらい。例えば一流企業の会社のビルなら社員証が必要だったり、豪華なマンションだったら必ず暗証番号を押すか専用の鍵がないと入れない。そして、もし入れたとしても安全の為に屋上のドアは鍵がかかっている」

富田氏は回想する。

「そうになると、自分が高層マンションの最上階に部屋を借り、そこから飛び降りるのが一番良い方法だと思い付いたわけだ」

それを実行するためにこれまでお金を稼いでこんなに高い所に部屋を買うこともできるようになった。

ただそれだけのことなのに周りの人間はすごく成功したと騒ぎ立てる。

おかしいものだ。

窓から見える景色を見遣る。遮るものはなく下には小さく家々が見えている。

今のよう暮らしに不自由しなくなっても、彼の自殺をしようという気持ちは変わらなかった。こうなると、もう執念とでもいうべきかもしれない。

もっともっと高い建物を自分で作り、誰も飛び降りたことのない高さから飛び降りてやろう。

新プロジェクトの超高層マンションが完成するのはまだ何十年も先になる。

富田氏が自殺をはかるのはとんでもなく先になりそうだ。  
寿命で亡くなる前にビルが完成するかどうか……

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8945k/>

---

きっかけ

2010年10月14日23時05分発行